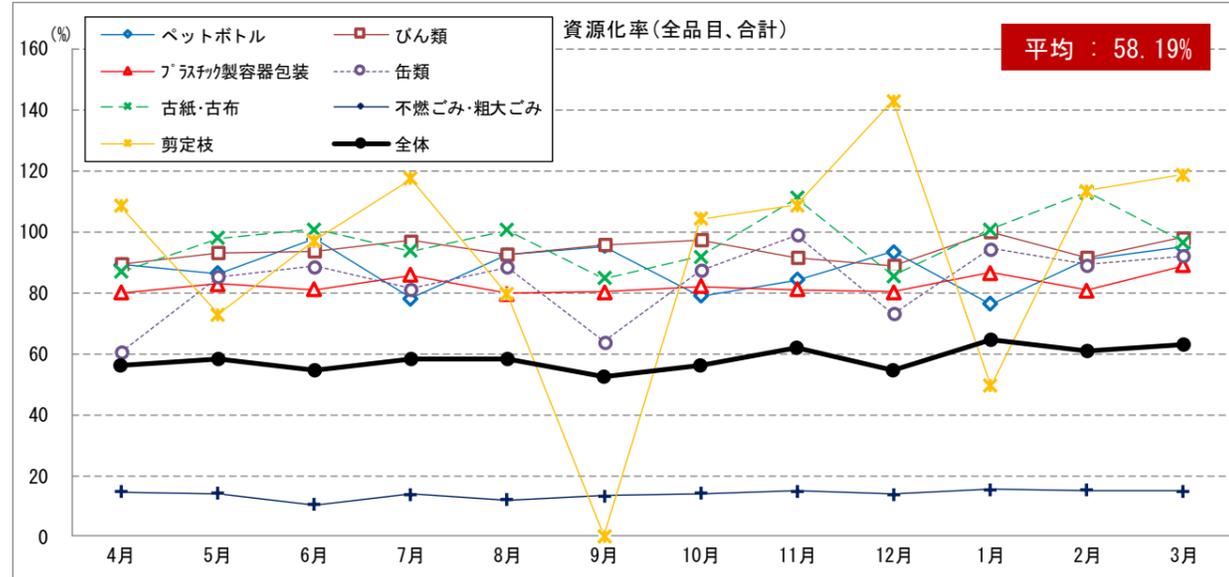


# 平成30年度(2018年度) リサイクルプラザ 内部モニタリング結果

## 1. 資源化



### 【内部評価委員会評価】

- ・資源化率が58.19%(前年度59.16%)に留まったことは残念である。
- ・プラスチック製容器包装をはじめ各品目それぞれの資源化率が向上しており、市民啓発の効果が表れたものと考えられ評価できる。

### 【今後の方針】

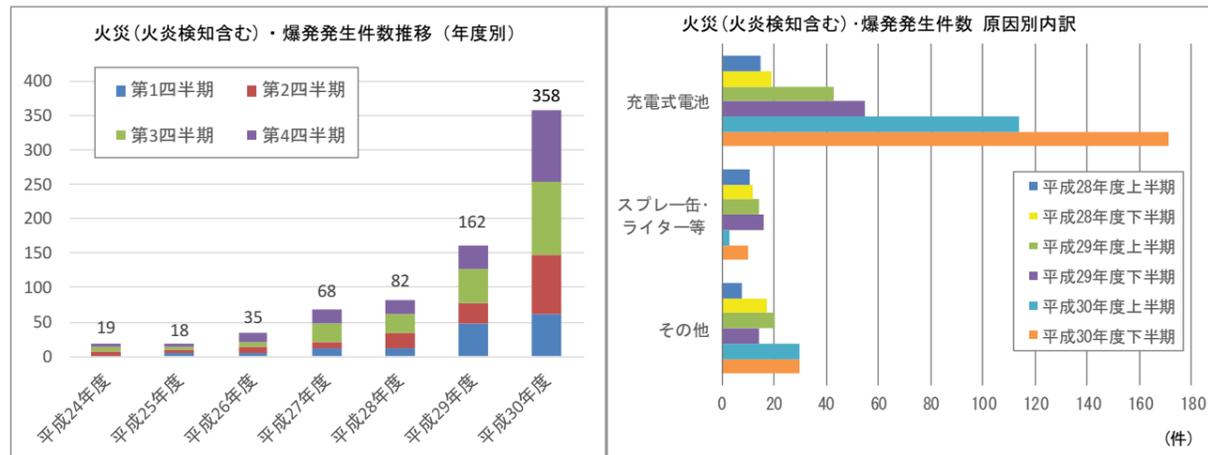
- ・不燃ごみ搬入量が増加し、搬入量全体に占める割合も上昇したが、地震や台風などの被害が発生し、通常の分別収集が困難な時期もあったことから、今後の推移を注視し資源化に努めること。
- ・現状と推移を啓発素材として、両市へ資料を提供するとともに両市と協働で市民啓発を徹底すること。
- ・プラスチック製容器包装や不燃ごみの搬入物検査を充実させ、リサイクルプラザはもとより、搬出先の資源化施設の安定稼働に努められたい。

### 《令和元年度(2019年度)における対応》

- ・台風や地震により、分別が困難な片付けごみが多量に発生したことが資源化率の低下に繋がったが、不燃ごみの搬入物検査を充実させ、両市と情報共有を図る。
- ・また、プラスチック製容器包装には充電式電池や、これらを内蔵する製品の混入が見受けられる。そのため除去しきれなかったこれら品目の混入により、搬出先の施設で発火の事象が発生したことについても、両市と情報共有し、市民啓発に努めるとともに、手選別作業においても注意するよう指導する。

## 2. 事故・故障

労働災害：1件(針刺し事故) 火災(火災検知含む)・爆発(ごみ処理停止に至ったケース)：358件



### 【内部評価委員会評価】

- ・医療系廃棄物混入による針刺し事故について、保護具の見直しなど受け入れ側での対策を行ってきただが、発生したことは残念である。
- ・火災(火災検知含む)の発生件数は358件で、前年度の162件から大幅に増加しており、その多くは充電式電池が発生原因となっている。

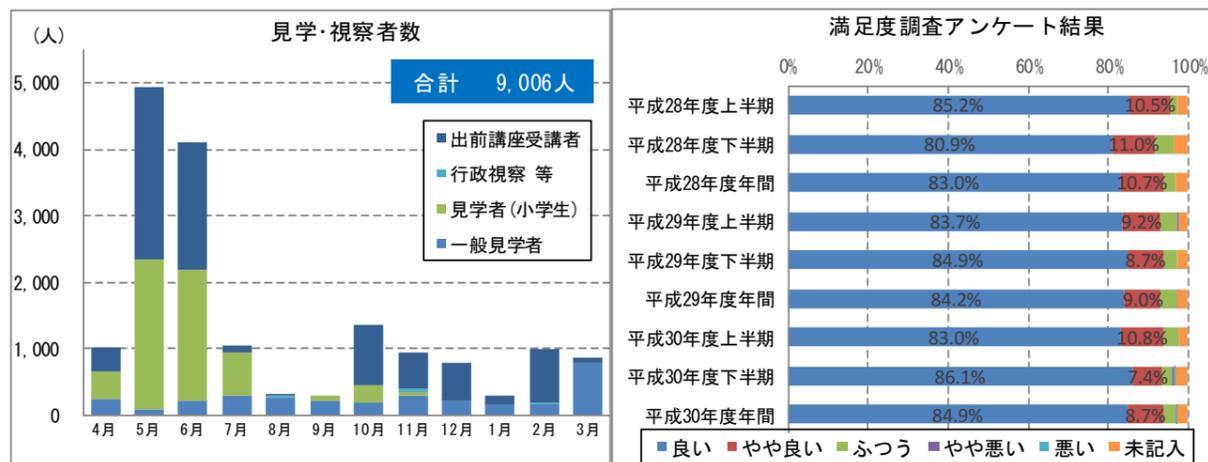
### 【今後の方針】

- ・プラスチック製容器包装に混入する注射針が増加傾向であることを両市と情報共有し、更なる市民啓発など取り組みを強化すること。
- ・充電式電池を内蔵した小型家電について、搬入時に別スペースに収集車両から降ろすことや分別形態の見直しも含め、抜本的な解決策について両市と検討すること。
- ・火災検知や爆発の件数の推移等を見極めたうえで、消火設備の増強工事の効果を検証すること。

### 《令和元年度(2019年度)における対応》

- ・プラスチック製容器包装に混入する注射針の状況については、両市と情報共有するとともに、施設見学者への説明や両市のイベント参加の際にも市民啓発を強化する。
- ・また、充電式電池の破碎処理が発火を招くことから、両市収集部局へ発火事象が多発するこれら製品の別降ろしについて協力を求める。
- ・併せて昨年度実施した消火設備増強工事の効果を検証する。

## 3. 環境学習・啓発



### 【内部評価委員会評価】

- ・目新しさもやや薄れ、一般見学者数が減少していくことは致し方ないが、施設見学者や出前講座の受講者の増員に努められたい。
- ・「やや悪い」「悪い」といった意見を真摯に受け止め、早急に改善できる点は改善し、時間や予算が必要な改善についてはじっくり検討し、今後の状況を注視すること。

### 【今後の方針】

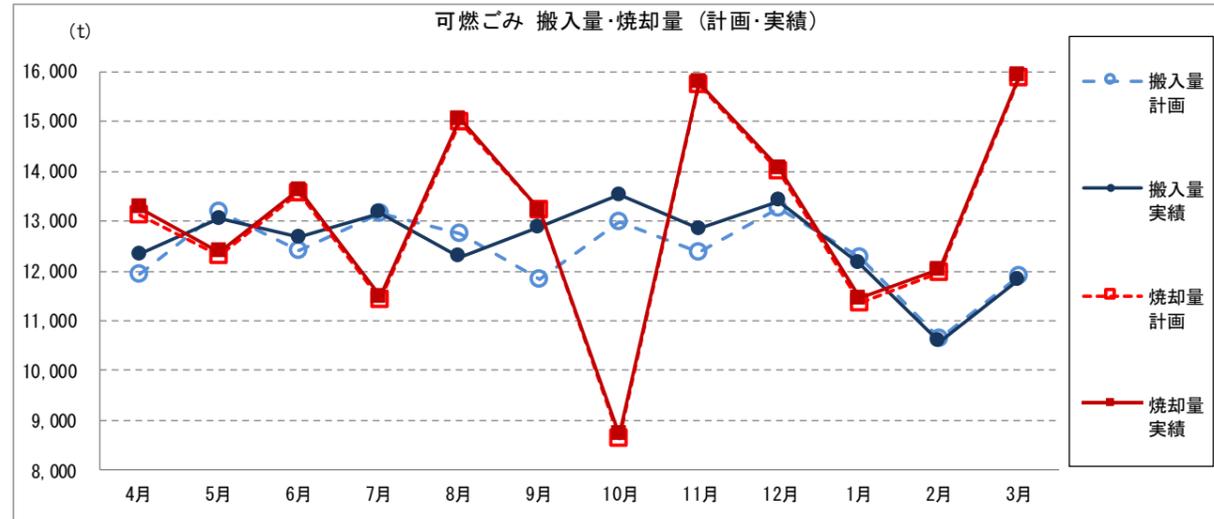
- ・リピーターの確保に向けた他施設にはないクリーンランドの魅力を引き出すような斬新な企画などの企画立案を指示されたい。
- ・緑地帯とリサイクルプラザ及びひろばを一体的に活用した環境学習メニューの構築について、環境学習業務受託者と調整・協議のうえ、一定の方向性を決定すること。

### 《令和元年度(2019年度)における対応》

- ・施設見学者の確保にはリピーター対策が重要であり、来場者に対して新たな提案が行えるような企画が必要と考え、現在は展望フロア一般開放デーに併せて市民講座や家具のリユースコーナーを開催するとともに、新たに企画した食器リユースコーナーを実施しているが、今後も緑地帯やひろばを活用するなど、来場者が再び訪れたいと思う取り組みの提案を指示している。

# 平成 30 年度 (2018 年度) ごみ焼却施設 内部モニタリング結果

## 1. ごみ焼却施設



### 【内部評価委員会評価】

- ・災害等の影響により計画値と比べ大きく乖離している月もあったが、焼却量は、概ね計画通りに推移していることから、安定的な運転管理ができています。
- ・電気使用量は消費電力の削減効果が見られ、電気使用量が減少している。

### 【今後の方針】

- ・今後も引き続きごみの組成変化や光熱水量の推移を検証するとともに、焼却施設の安定稼働に向けて、適正な維持管理・運転管理を実施すること。
- ・年間を通じて焼却炉の運転状況に余力がなく、施設をフル稼働しているため、両市のさらなるごみ減量施策の推進が必要である。
- ・可燃ごみの堆積量増加に伴い、今後の施設の安定稼働に影響が想定されるため、対策について検討をすること。

### 《令和元年度(2019年度)における対応》

- ・焼却量については、概ね計画通り焼却できており、引き続き安定的な運転管理を行う。
- ・所内電力の削減対策については、検証を行いながら引き続き実施していく。
- ・施設見学や出前講座を通してごみの分別と減量を啓発するとともに、両市に対して、より一層のごみ減量施策を求めていく。

## 2. 環境

### (排ガス)

項目	測定値	基準値	
		自主	法定
ばいじん (g/N m <sup>3</sup> )	<0.001	0.01	0.04
塩化水素 (g/N m <sup>3</sup> )	<0.4~1.2	10	約 430
硫酸酸化物 (ppm)	<0.5~1.6	10	120
窒素酸化物 (ppm)	8~25	30	250
ダイオキシン類濃度 (ng-TEQ/m <sup>3</sup> )	0.000079	0.05	0.10

### (排水)

項目	測定値(平均値)				基準値
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
総水銀含有量 (mg/l)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.005
鉛 (mg/l)	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	0.1
亜鉛 (mg/l)	0.8	0.6	0.5	0.7	2
ダイオキシン類濃度 (pg-TEQ/L)	(7月2日)0.000036				10

### 【内部評価委員会評価】

- ・適正かつ計画的な維持管理の実施等により、全ての項目において基準値を満たしており、適切に管理ができたことは評価できる。

### 【今後の方針】

- ・今後も引き続き各測定項目が基準を満たす値となるよう、適切な施設の維持管理、運転に努めること。

### 《令和元年度(2019年度)における対応》

- ・排ガス・排水の全ての項目において、引き続き年間を通して基準値を満たせるよう測定値の推移を確認し、適正な運転管理・運転に努める。

## 3. 事故・故障

公務災害 : 1件  
 (装置のシャッター点検時に薬指を挟んだ)  
 設備・機器故障(焼却炉の停止に至ったケース): 0件

### 【内部評価委員会評価】

- ・今年度も公務災害が発生したことは大変残念であるが、発生した公務災害を教訓に取り組みがなされた結果、下半期が無災害であったことは評価する。

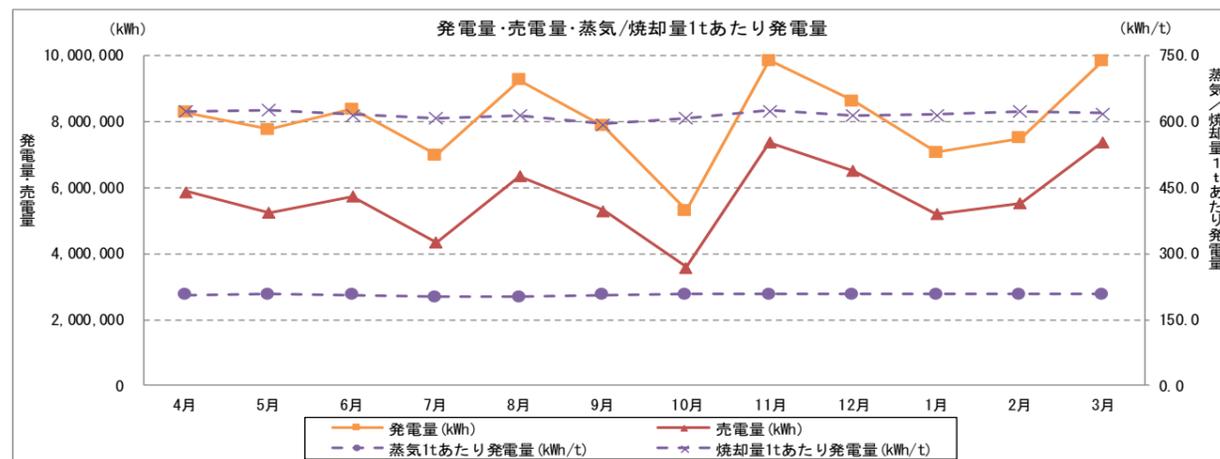
### 【今後の方針】

- ・全職員に周知徹底を図るなど、再発防止に向けた取り組みを継続し安全意識の維持向上に努めること。
- ・各種設備・機器の適正かつ計画的な予防保全を行うことにより、引き続き焼却炉の安定稼働に努めること。

### 《令和元年度(2019年度)における対応》

- ・この間発生した公務災害の対策等の再確認を行い、類似災害を含めた再発防止に努める。
- ・日常点検や修繕などからなるデータを基に各設備機器の予防保全に努める。

## 4. 資源化



### 【内部評価委員会評価】

- ・年間通じて蒸気 1t 当たりの発電量は高い値を維持できており、安定的、効率的な施設稼働ができていますと評価できる。

### 【今後の方針】

- ・今後も引き続き高効率な発電設備の活用により、安定的かつ売電収入の確保に努めること。

### 《令和元年度(2019年度)における対応》

- ・3年間の実績や蓄積したデータを踏まえ、年間の運転計画をより安定的、効率的な施設稼働ができるよう調整を行い、高効率で安定した発電量も確保できるよう取り組む。